



## 【分科会報告会】

総会に先立ち、第三期の分科会活動報告が行われた。今回は五分科会から、「河川と歴史・文化について」若狭地方の事例と、「交通路としての運河の役割に関する歴史的考察(その2)」、「福井の地名から学ぶ防災・減災について」、「人口減少、高齢化、国際化(観光)時代における県境道路のあり方」、道路交通の安全性に関する文献調査研究」と題してそれぞれ研究成果が報告された。今後、福井のみならず全国的に問題となってくる題材を取り上げ、REEFらしい報告が行われた。以下に簡単な研究の要旨と議論された内容について掲載する。

### 【水分科会】

発表者 萩原 貞宏 氏  
質疑 鹿内 愛軌 氏

#### 「河川と歴史・文化について」

河川は人々の生活に密接に関連しながら時代の要請に応じて治水、利水、環境を取り込んで整備が進められてきた。特に環境については、自然環境はもとより歴史・文化にも配慮がなされている。

水分科会では、昨年度県内の比較的小さい5つの河川についてその整備の経緯や地域とのつながりの状況について取りまとめを行ったが、今回は若狭地方の比較的規模の大きい河川として、一級河川「北川」と地域とのつながりの状況を、特に歴史・文化について取りまとめを行うこととした。

今回は、北川流域内の歴史的な行事として「お水送り」、治水の歴史的な施設である「霞堤」、文化的な施設として「瓜割の滝」、「雲城水」、歴史や文化を景観的に取り込んだ北川に架かる橋「こうのとり橋」を調査対象とした。調査項目としては、行事の内容や普段の土地利用形態、周辺の整備状況等を中心に調査した(概要は機関誌を参照)。

今後は、さらに別の河川についても地域とのつながりの状況について調査を行うこととしたい。

### 【交通分科会】

発表者 藤田 亜美 氏  
講評者 福 秀則 氏

#### 「交通路としての運河の役割に関する歴史的考察(その2)」

運河とは「水運を目的として、人工的につくられた水路」であると定義されており、古くはローマ時代から主要な交通施設として人々に親しまれてきた。交通分科会では、前年度に引き続き、分析対象運河を増やし、現地調査及び資料・文献調査から運河の歴史的背景や現在の状況・活用方法を探ること、交通路としての運河の機能継承について整理するとともに、運河を含めた水辺空間と都市の関係を解釈し、運河等の機能と形態を再構築するための基本的な知見とする。

運河は、もともと交通路として開削されたものが多く、現在は交通路としての役割を果たしているものはほとんどない。近年では親水広場としての機能拡充、遊覧船の運航、スタンドアアップドールボートを使用した「水上さんぽ」などのアクティビティとしての利活用が挙げられる。最近の日本においても、国土交通省による「ミズベリング」の提唱等、水辺空間を中心に都市全体の活性化に向けた取り組みが行われている。

今後は、水辺と公共交通や道路網との結びつきを見直し、水辺にアクセスしやすい環境(ミズベリング)の向上について検討する。



発表:萩原氏 質疑:鹿内氏



発表:藤田氏 講評:福氏

### 【地象分科会】

発表者 小林 孝彰 氏  
質疑 西谷 光史 氏

#### 「福井の地名から学ぶ防災・減災について」

大雨などの防災減災を考えるにあたって気象と並ぶ重要な要素として地形があげられ、その地形を理解することは対策を講ずる上で必要な知識となることは言うまでもない。

そのような地形を読み解くにあたって切り離せないものが地名である。地名はその地域が過去にどのような地形であったのか、どのような災害が起り得るのかといった、災害リスクを把握するのに有用な要素であり、今回はその地名に着目し、地形や防災について考えていく。

現地調査は地名の歴史と地形に詳しい海道先生(北陸高等学校非常勤講師)を交え、先生の講演会で取り上げられた箇所とその付近の特徴のある箇所を中心に実施した。

今回、調査した箇所については、その地名が河川とのつながりを色濃く残していたが、かつては川であったようなところも、現地調査や過去の地形図、航空写真を比較することで初めてその形跡を確認できるだけとなっている箇所があった。

河川整備で堤防が整備されたことで、かつてほど河川による被害がなくなつたとはいえず、予想外の災害がいつ起こってもおかしくない状況の中、どのような災害が自分の地域に影響があるかを把握することは減災への第一歩である。

今回調査した地域においては、地名が暗に河川を示しているところであり、その地域の特性を示す名前が確認された。地名には地域の特性を把握する大きな手がかりが残されており、地名を理解し、隠されたメッセージを理解することは、先人から有意義なアドバイスを聞くことにほかならない。

【県境道路分科会】発表者 橋本 拓巳 氏  
 質疑 細谷 宗平 氏

「人口減少、高齢化、国際化(観光)時代  
 における県境道路のありかた」

近年の幹線道路網の整備の進展に伴い、縦貫・横断路線が有機的に連絡して広域的な周遊ルートを形成するようになってきており、今後更に中部縦貫自動車道や冠山峠の整備により、県境部を挟んだルートの選択肢が多様化し、災害時の避難や救急活動、県境部の過疎地域の維持・再生、観光交通への寄与が期待される。

今期は、人口減少、高齢化、国際化(観光)時代における県境道路のあり方、活用方策を主要テーマにして文献調査を中心に活動を行った。

文献は愛知大学三遠南信地域連携研究センター編集・発行の「越境地域政策への視点」を用いている。

調査報告としては、①高規格道路ネットワークによる広域的な環状ネットワーク形成について、②県境部の現状として、福井県における県境地域の概要と福井県の将来人口について、そして、③広域的な地域計画や④危機管理と大きく四つの項目について報告があった。

次期の取り組みとして、現地調査の実施や地域連携の実例の収集を行っていく。



発表:小林氏 質疑:西谷氏



発表:橋本氏 質疑:細谷氏

【道路交通安全分科会】発表者 横木 剛 氏  
 質疑 鈴木 翔平 氏

「道路交通の安全性に関する文献調査研究」

二一世紀のまちづくりの課題として「安全・安心なまちづくり」が謳われて久しく、わが国では、地震や風水害など自然災害に見舞われやすい地理的特性を有しているため、安心・安全、と言えば、「防災」が取り上げられることが多い。しかし日々の生活では、より頻繁に発生する「防犯」「交通安全」に対するニーズもある。超高齢社会になり、「福祉」についても、安心・安全、に関する課題のひとつと言える。

こうした中、その死者数に目を向けると、これまで交通事故で亡くなっている人々は桁違いに多く、「安心・安全なまちづくり」を目指す際、まず「交通安全」は考えなくてはならないと言える。

今年度は、最近二十年間における道路交通の安全性に関する調査研究や事業の文献を調査し、発行元ごとに、研究上の分析視点や各種事業の施策内容に基づいて文献の整理を行った。

今後は、一部文献調査・整理が完了していないものがあるため、引き続き実施することとする。特に、文献の対象とする学問領域別、さらに文献が発行された時系列での傾向に着目して整理することで、今後必要な研究課題や施策等について検討したいと考えている。



発表:横木氏 質疑:鈴木氏



総評を行う橋本氏

★入退会のおしらせ★(敬称略)

《入会》  
 賛助会員 藤田 亜美

西谷 光史  
 鹿内 愛軌  
 鈴木 翔平  
 中村 真里  
 細谷 宗平  
 許 鋒

《退会》  
 正会員 伊井 健夫

賛助会員 伊豆原 浩二  
 山田 貴大

	H27.7	備考
正会員	72	入会+0 退会-1
賛助会員	30	入会+7 退会-2
計	102	

【会費の納入について】

会費の納入をお願いします。

■年会費

正会員 … 12,000円  
 賛助会員 … 3,000円

■会費納入先

《振込みの場合》

ゆうちょ銀行  
 振替口座 730・3・20396  
 福井地域環境研究会

※機関紙巻末の振込用紙をご利用ください。

《直接支払う場合》

総会、中間報告会、談話会等開催時、または、左記、財務幹事まで直接お支払いください。

【財務幹事】

〒910-8580  
 福井県福井市大手3丁目17-1  
 福井県土木部河川課

清水 健

TEL 0776-20-0481  
 Mail t-shimizu-j3@pref.fukui.lg.jp